

## 2025. 4. 22 国旗との出会いから

昼遊び、年中 K 男と Y 男らが廊下から地球儀を持ってきて、「これブラジルの旗だよ！」「日本はどこ？」「この旗も知っている！」と盛り上がっていた。教員は「K くん、ブラジルの旗、知ってるの？」と聞くと、「知ってるよ！」と得意げ。そして、横にいる Y 男もとても真剣に地球儀を見ていた。

次の日、国旗が載っている世界地図を保育室に用意した。そして、そばに国旗の塗絵やイラストも用意してみる。S 男は、その国旗のイラストを切り取ると自分が作った武器につけだした。そして、教師に「かっこいいでしょ！」と嬉しそう。そして、ボール状にしたペットボトルの蓋にもスウェーデンの国旗をはると、大事そうにポケットの中に入れていた。国旗を武器につけたり、ペットボトルの蓋につけて宝物にしたりするところがまた愛おしい。

T 男は、アンパンマンを愛する男の子。彼はアンパンマンのキャラクターを段ボールで表現していたのだが、そこに国旗を貼り始める。「いろんな色でかっこいいでしょ！」と T 男。I 男は、世界地図を見ながら、地図を指さし、「オマーン」「ロシアー」と文字を読みながら楽しんでいる。昼遊びの後、全体で集まった時に教師は国旗の話をした。そこで I 男に前にでてもらい、「これはどこの国の旗かわかる？」と聞くと、「ブラジール！」「アルゼンチーン」とみんなの前で答えていく。その表情はとても嬉しそうだった。そして、みんなから拍手をもらいさらに嬉しそうだった。国旗を通して全体場で認められ、自信につながる。

国旗への興味の広がりを見て、教師は国旗一覧を作り、朝保育室に掲示をした。ロケット作りを楽しんでいた R 男は「ぼく『デルタⅣ』にしたい！ここに先生『デルタⅣ』って書いて！」と言いに来る。そして、教師が書くと、S 男がデルタⅣのロケットの写真を見ながら、「ここにアメリカの旗があるよ！」と写真を見て指さす。それを R 男も見ていた。すると R 男は「ここにアメリカの旗をはりたい！」とアメリカの旗のイラストを切り始めた。その横で Y 男は「ぼくは日本を貼りたい！」と日本の国旗をロケットに貼りだす。さらにアメリカともう一つの国旗を貼る。国旗遊びとロケット作りがつながり始める。

国旗コーナーのところに、穴をあけたトレイに国旗を立てておいた。それを見た S 男は「それを作りたい！」と旗を切りはじめた。「僕、この旗がいい！」と南アフリカを指さし、切り始める。最終的に 6 本の国旗ができ上がった。S 男はなぜこの国を選んだかということだった。好きなポイントはみんないろいろである。K 男が「先生！この旗とこの旗同じだけど、色がちょっと違うね！」とつぶやく。それはトルコとパキスタン。教師も「そうだね！」と答えると、「先生！もう一個違うの見つけたよ！月の長さが違う！」と K 男。「すごいね！よく見つけたね！」と声を掛ける。みんな時間でそのことを紹介した。すると、K 男はみんなの前で「先生！もう一個違うのみつけたよ！」と言い出す。「ほら、ここ白い！」とパキスタンの国旗の左端が白いことを言う。見れば見るほど、旗の形、模様、色合いなどに注目が広がっていく。

「僕はアメリカが好きだな！」と Y 男。すると私も私もと子供たちにはアメリカの旗が人気であった。

次の日、R 子が家で塗ってきた国旗や国旗を貼り付けた手作り絵本を朝の会で全体に紹介した。色をつけた旗を見せながら、「この旗がどこの国かな？」とみんなに尋ねる。すると、「あった！あそこ！」とみんなが国旗掲示を指をさす。今まで見たこともなかった国旗にも少しずつ興味をもち始める。教師は絵本作りコーナーを用意した。好きな遊びが始まると、絵本作りに取り掛かる子も多くいた。その作り方はいろいろで、国旗を切り取ってノートに貼っていく子もいれば、お気に入りのカメを書いて絵本にする子、ロケットの写真を切り取って貼る子、切り取ったハートなどを貼り付けている子など多種多様だった。

昼遊びの時、K 男はレゴブロックで遊んでいた。四つのブロックをつけて教師に見せにくる。教師はその形や

色合いを見て、「なんか国旗みたいだねー」と声をかける。K男は「ん？」と隣にあった国旗の掲示に目をやる。すると、偶然その色と同じ色の国旗を見つける。でも色の順番が違う。K男は「ちょっと待って！」とそのブロックを組み合わせる。すると、「モーリシャス」と同じ国旗になった。K男はなんどもその国旗の横にブロックを当てながら嬉しそうであった。その様子を見ていた、S男がオレンジ、白、緑のブロックで旗を作ろうとする。「先生、これいっしょ！」とアイルランドの国旗にところにブロックを当てながら見せてくれる。縦横は違うものの、色は一緒であった。ブロック遊びも国旗へとつながっていく。

最初は、数名が地球儀を保育室にもってきて、何気なく国旗探しをしているところが始まりだった。そこから環境を通して、子供たちなりに国旗に触れる機会を用意した。その中で興味をもった子供たちは、どんどん国旗に触れていく。その中で、ロケットや手作り絵本、ブロックなどいろいろな遊びともつながり始める。子供たち一人一人の思いのもと、遊びの枠を超えながら、国旗遊びの可能性が広がっていく。そこでの経験がまた新たな遊びの可能性を生み出していくかもしれない。一つ一つの遊びの充実はもちろんだが、その重なりやつながりも大切にしていきたい。

